

### 3 愛媛県のイメージ

#### 問26 現在の愛媛県のイメージ

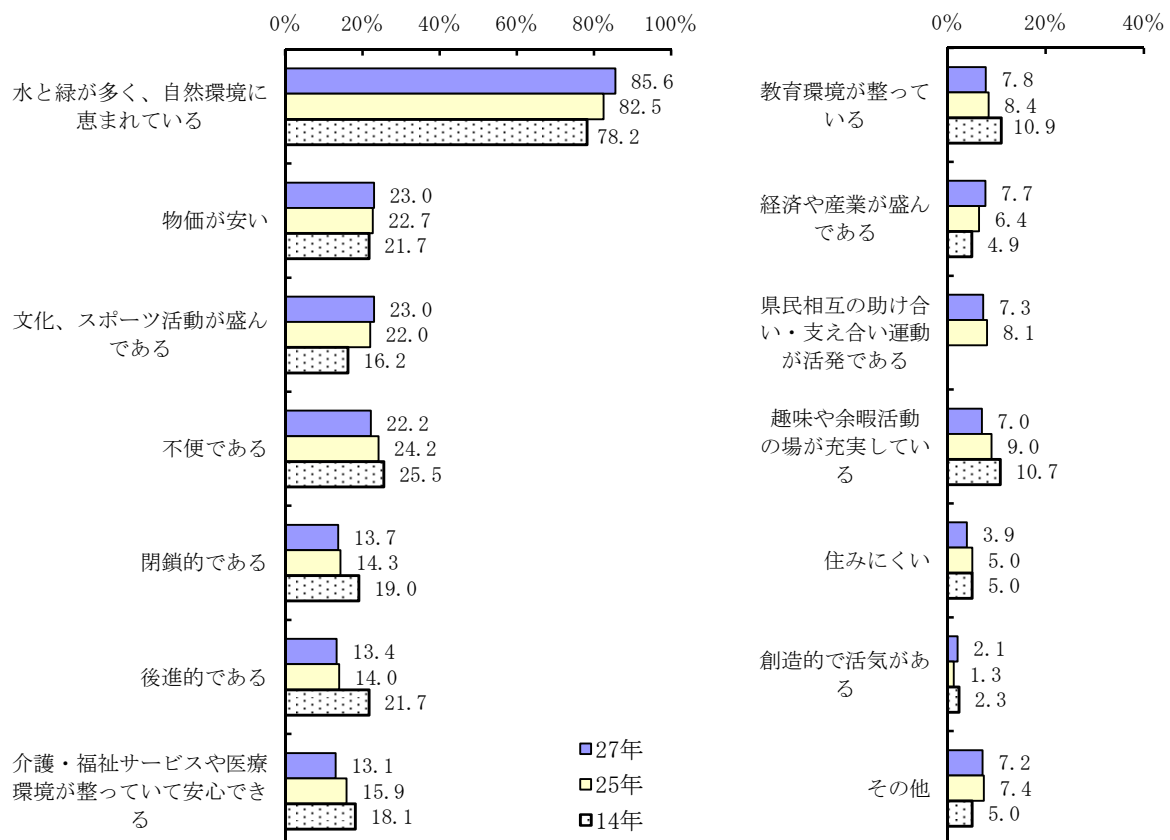
あなたは、今、愛媛県をどんなところかと思っていますか。あなたのイメージに近いものを次の中から三つまで選んで番号を○で囲んでください。

(複数回答) (%)

1	水と緑が多く、自然環境に恵まれている	85.6
2	物価が安い	23.0
3	経済や産業が盛んである	7.7
4	教育環境が整っている	7.8
5	介護・福祉サービスや医療環境が整っていて安心できる	13.1
6	趣味や余暇活動の場が充実している	7.0
7	文化、スポーツ活動が盛んである	23.0
8	創造的で活気がある	2.1
9	県民相互の助け合い・支え合い活動が活発である	7.3
10	後進的である	13.4
11	住みにくい	3.9
12	閉鎖的である	13.7
13	不便である	22.2
14	その他	7.2

愛媛県はどんなところかイメージを聞いたところ、「水と緑が多く、自然環境に恵まれている」と答えた人の割合が85.6%で特に多く、以下「物価が安い」(23.0%)、「文化、スポーツ活動が盛んである」(23.0%)、「不便である」(22.2%)、「閉鎖的である」(13.7%)などの順となっている。

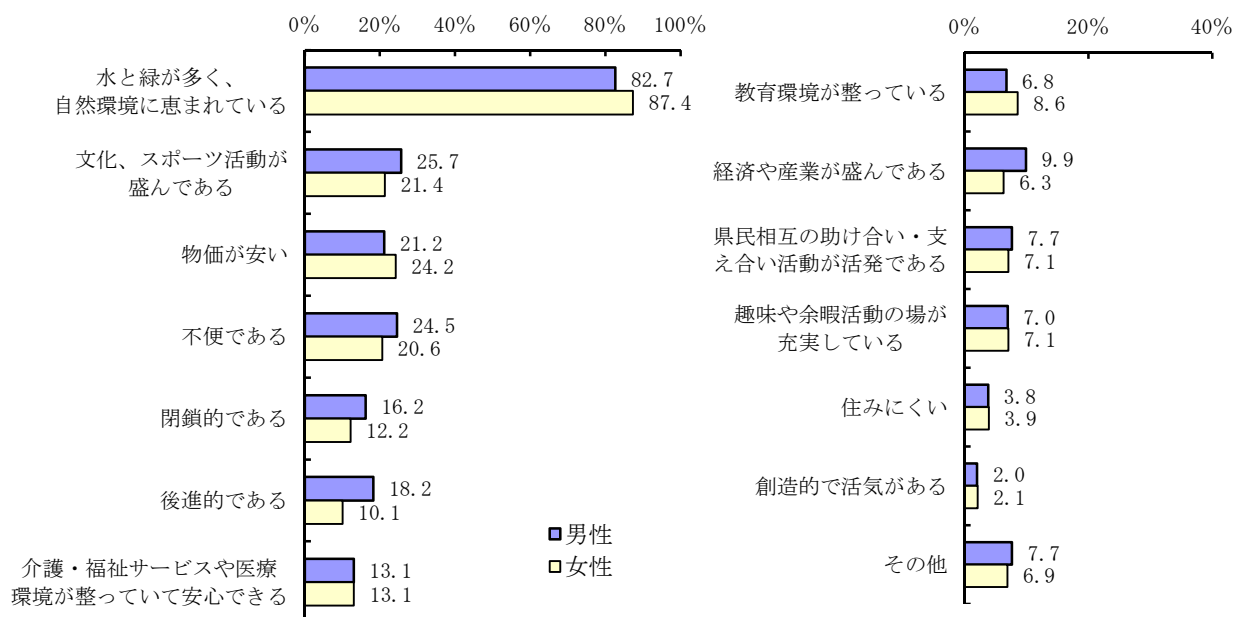
また、前回調査と比較すると、「水と緑が多く、自然環境に恵まれている」と答えた人の割合が、3.1ポイント増加しているが、全体的に概ね前回と同様であった。



### 【性別】

性別にみると、男女共に「水と緑が多く、自然環境に恵まれている」と答えた人の割合が特に多くなっている。（男性82.7%、女性87.4%）

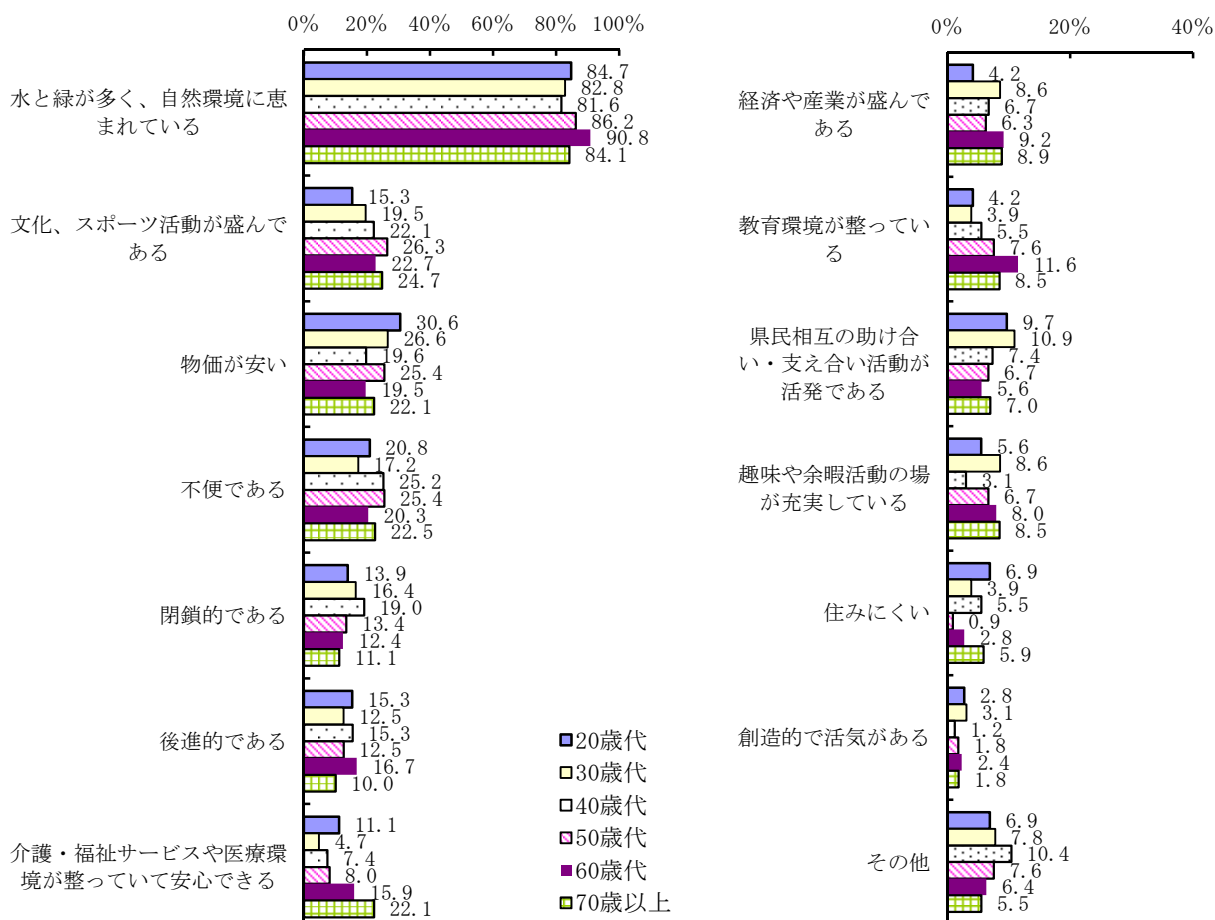
また、「文化、スポーツ活動が盛んである」、「不便である」及び「後進的である」は男性の方が多く、「物価が安い」及び「教育環境が整っている」は女性の方が多くなっている。



### 【年齢別】

年齢別にみると、全ての年齢層で「水と緑が多く、自然環境に恵まれている」と答えた人の割合が多くなっている。

また、「文化、スポーツ活動が盛んである」は、40歳代以上で多く、「物価が安い」は、20歳代で多く、「介護・福祉サービスや医療環境が整っていて安心できる」は、60歳代以上で他の年齢層と比較して多くなっている。

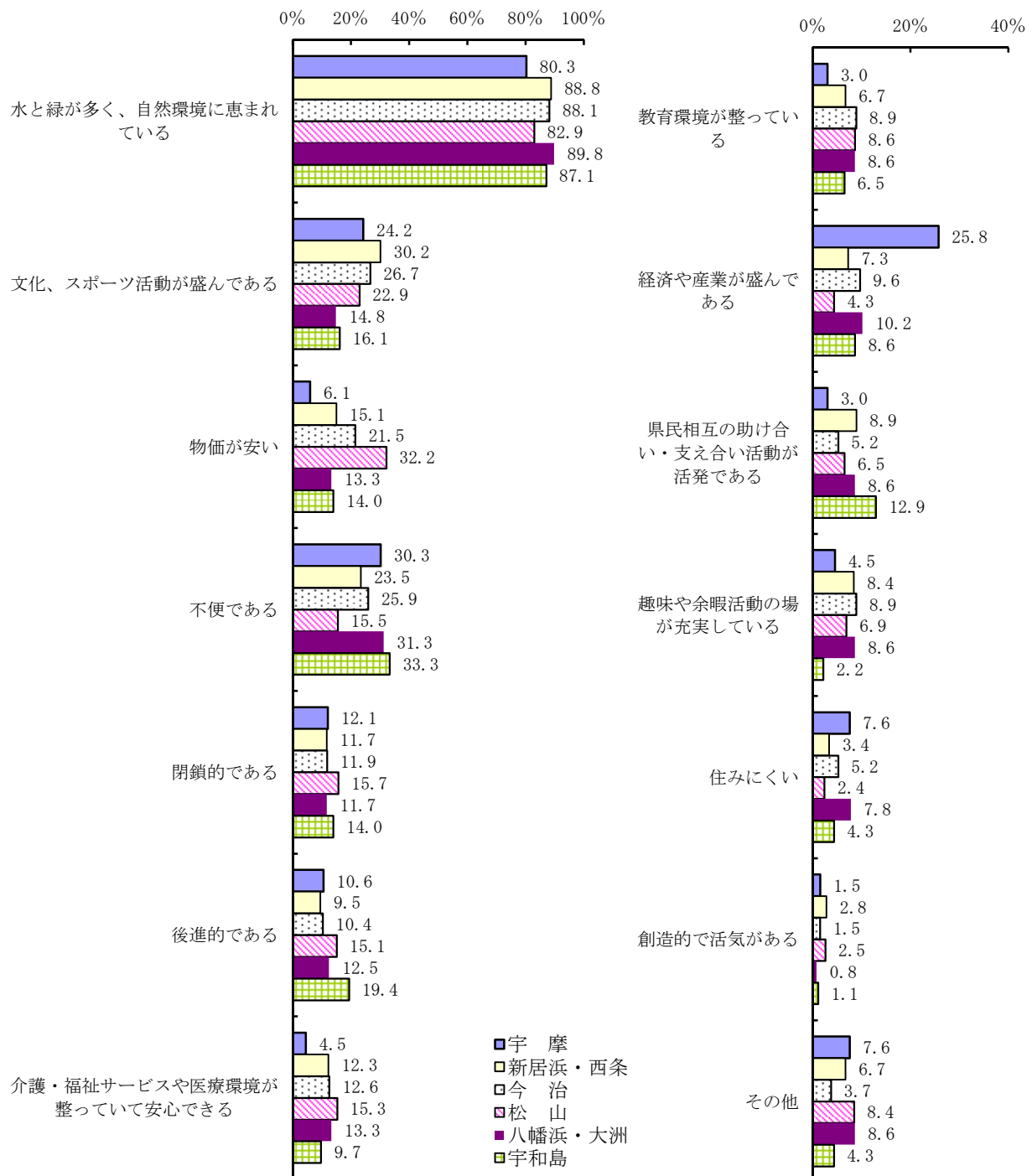


【生活圏域別】

生活圏域別にみると、全ての圏域で「水と緑が多く、自然環境に恵まれている」と答えた人の割合が特に多くなっている。

また、「文化、スポーツ活動が盛んである」と答えた人の割合は、新居浜・西条圏域で他の圏域と比較して多く、「物価が安い」は、松山圏域で多くなっている。「不便である」は、八幡浜・大洲圏域及び宇和島圏域で多く、「後進的である」は、宇和島圏域で多い。「経済や産業が盛んである」は、宇摩圏域で特に多くなっている。

この他、前回調査と比較すると、宇和島圏域では、「不便である」と答えた人の割合が、13.4ポイント特に減少している。

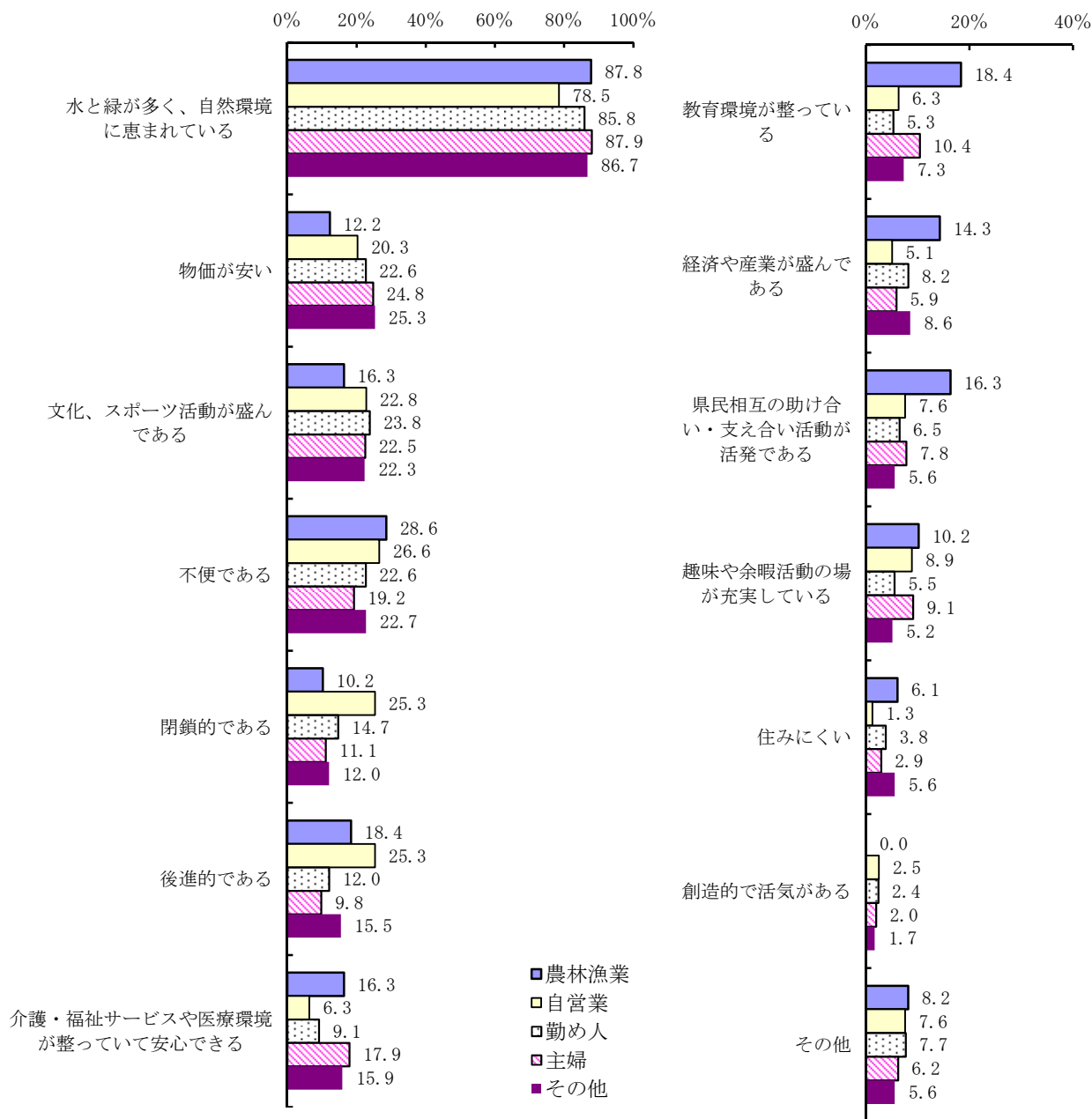


【職業別】

職業別にみると、全ての職種で「水と緑が多く、自然環境に恵まれている」と答えた人の割合が特に多くなっている。

また、「閉鎖的である」及び「後進的である」と答えた人の割合は、自営業が他の職種と比較して多くなっている。

この他、農林漁業では、「教育環境が整っている」、「経済や産業が盛んである」及び「県民相互の助け合い・支え合い活動が活発である」と答えた人の割合が、他の職種と比較して多く、「物価が安い」及び「文化、スポーツ活動が盛んである」が少なくなっている。



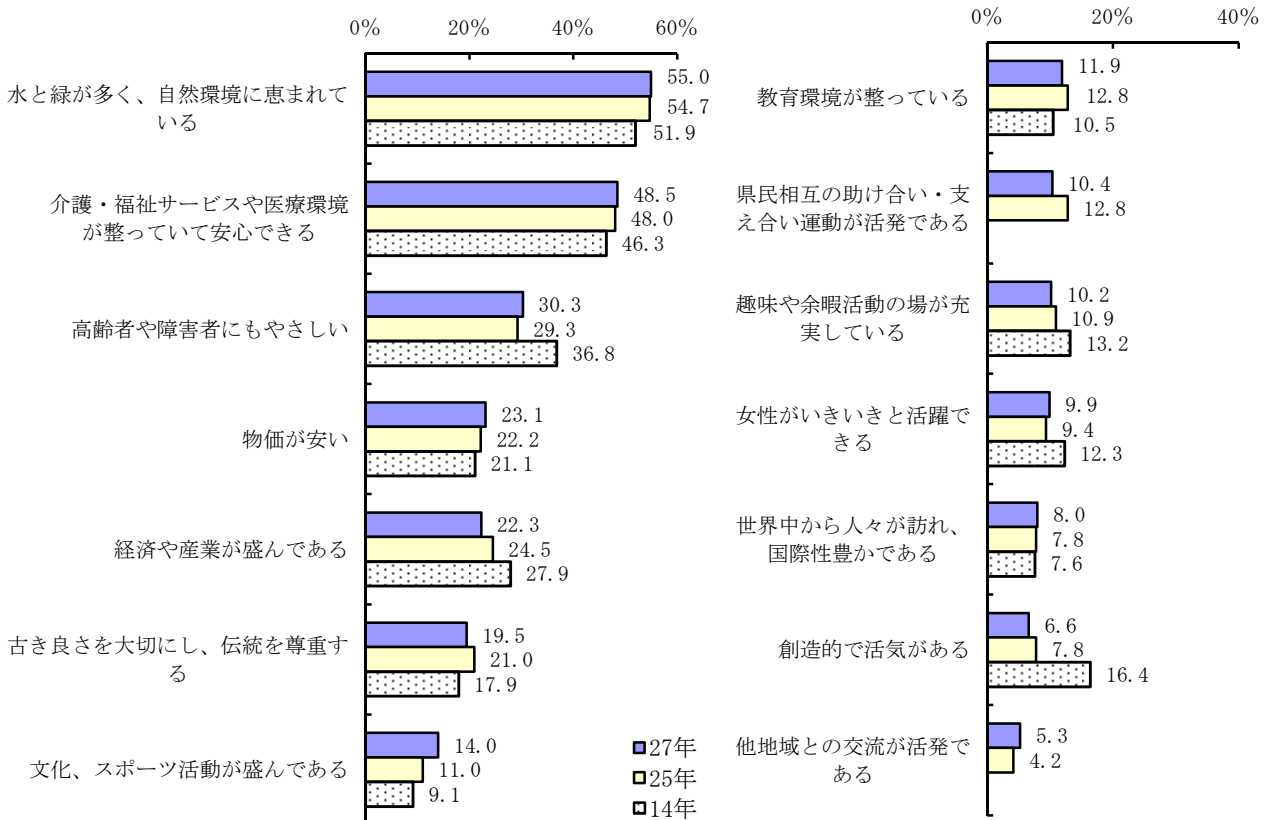
問27 将来なってほしい愛媛県のイメージ

また、今後、愛媛県のあるべき姿について、あなたのイメージに近いものを次の中から三つまで選んで番号を○で囲んでください。

	(複数回答)	(%)
1 水と緑が多く、自然環境に恵まれている	55.0	
2 物価が安い	23.1	
3 経済や産業が盛んである	22.3	
4 教育環境が整っている	11.9	
5 介護・福祉サービスや医療環境が整っていて安心できる	48.5	
6 趣味や余暇活動の場が充実している	10.2	
7 文化、スポーツ活動が盛んである	14.0	
8 創造的で活気がある	6.6	
9 県民相互の助け合い・支え合い活動が活発である	10.4	
10 古き良さを大切にし、伝統を尊重する	19.5	
11 他地域との交流が活発である	5.3	
12 世界中から人々が訪れ、国際性豊かである	8.0	
13 高齢者や障害者にもやさしい	30.3	
14 女性がいきいきと活躍できる	9.9	
15 その他	2.1	

愛媛県の今後あるべき姿のイメージを聞いたところ、「水と緑が多く、自然環境に恵まれている」と答えた人の割合が55.0%、「介護・福祉サービスや医療環境が整っていて安心できる」が48.5%で特に多く、以下「高齢者や障害者にもやさしい」(30.3%)、「物価が安い」(23.1%)、「経済や産業が盛んである」(22.3%)、「古き良さを大切にし、伝統を尊重する」(19.5%)などの順となっている。

また、前回調査と比較すると、全体的に多少の増減はあるものの概ね前回と同様であった。

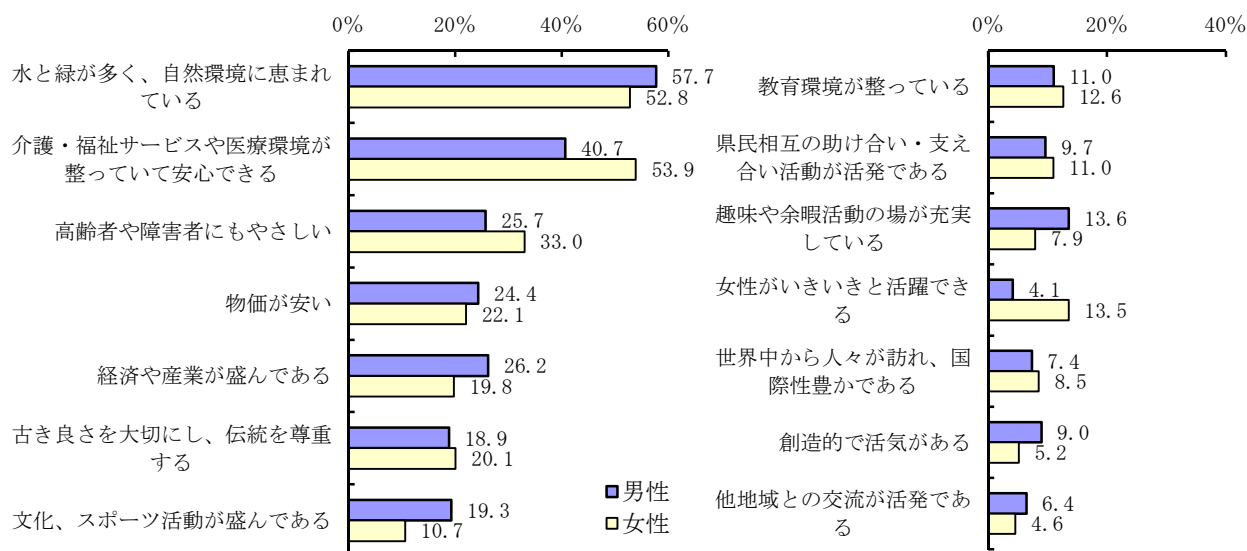


## 【性別】

性別にみると、男性では、「水と緑が多く、自然環境に恵まれている」（57.7%）、女性は「介護・福祉サービスや医療環境が整っていて安心できる」（53.9%）と答えた人の割合が最も多い。

また、「高齢者や障害者にもやさしい」及び「女性がいきいきと活躍できる」は女性の方が多く、「経済や産業が盛んである」、「文化、スポーツ活動が盛んである」及び「趣味や余暇活動の場が充実している」は男性の方が多くなっている。

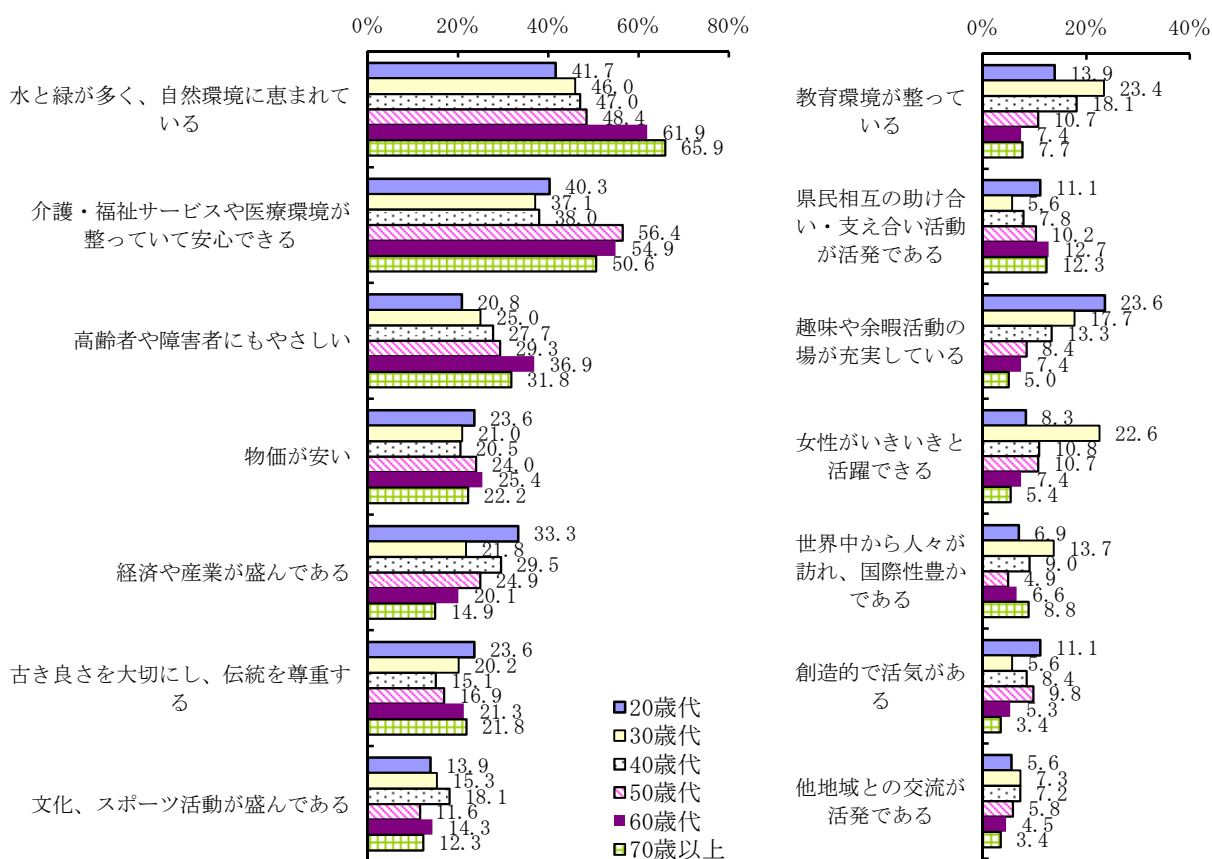
この他、前回調査と比較すると、「文化、スポーツ活動が盛んである」と答えた人の割合は、男性（4.2ポイント増加）、女性（2.4ポイント増加）共に増加している。



## 【年齢別】

年齢別にみると、50歳代を除く全ての年齢層で「水と緑が多く、自然環境に恵まれている」と答えた人の割合が最も多く、50歳代では「介護・福祉サービスや医療環境が整っていて安心できる」（56.4%）が最も多くなっている。

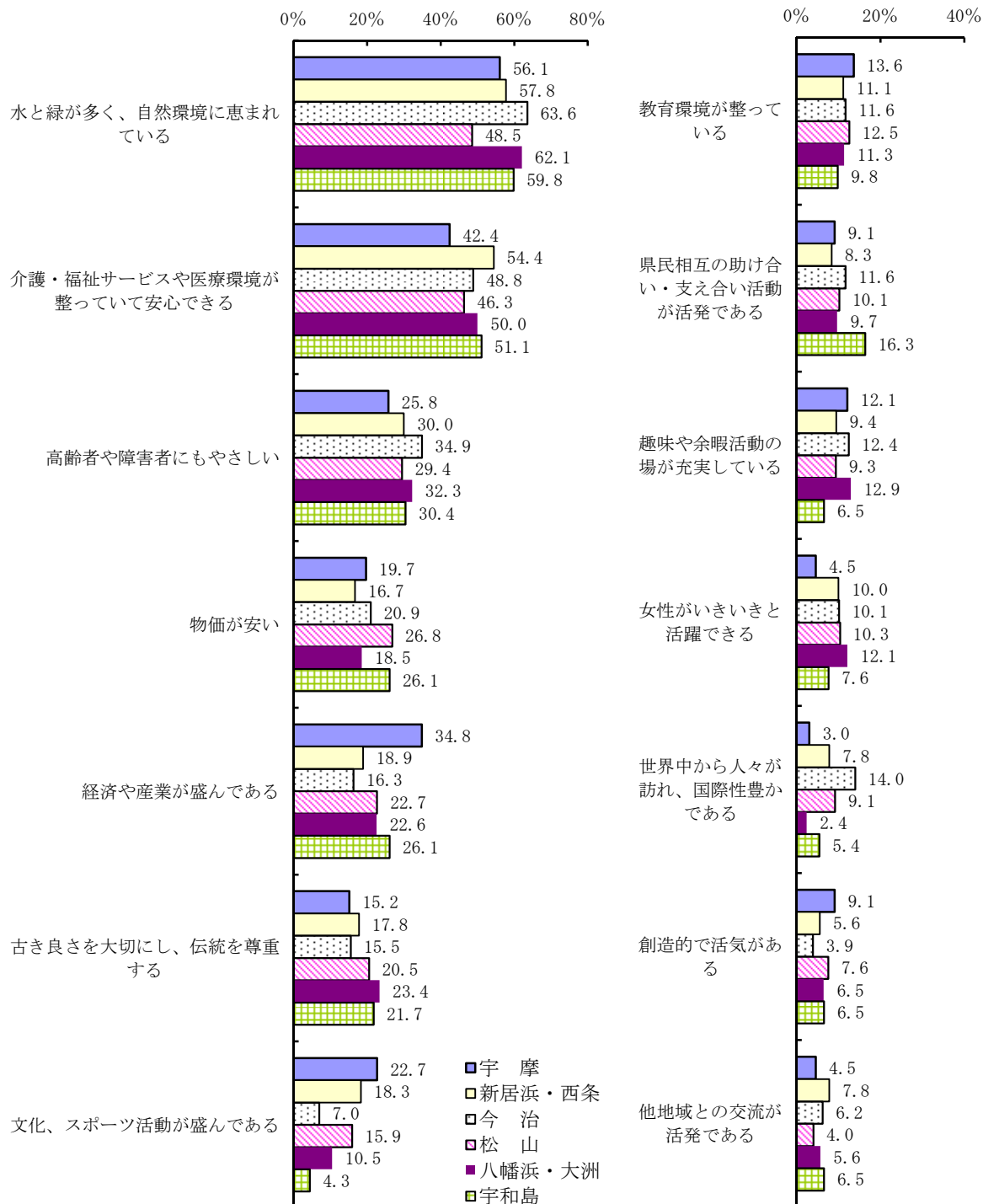
また、「経済や産業が盛んである」及び「趣味や余暇活動の場が充実している」と答えた人の割合は20歳代で、「教育環境が整っている」及び「女性がいきいきと活躍できる」は30歳代で、「高齢者や障害者にもやさしい」は60歳代で多くなっている。



【生活圏域別】

生活圏域別にみると、全ての圏域で「水と緑が多く、自然環境に恵まれている」と答えた人の割合が最も多くなっており、中でも今治圏域は、前回調査より8.2ポイント増加している。

また、「経済や産業が盛んである」は宇摩圏域で、「県民相互の助け合い・支え合い活動が活発である」は宇和島圏域で、「世界中から人々が訪れ、国際性豊かである」は今治圏域で、他の圏域と比較して多くなっている。

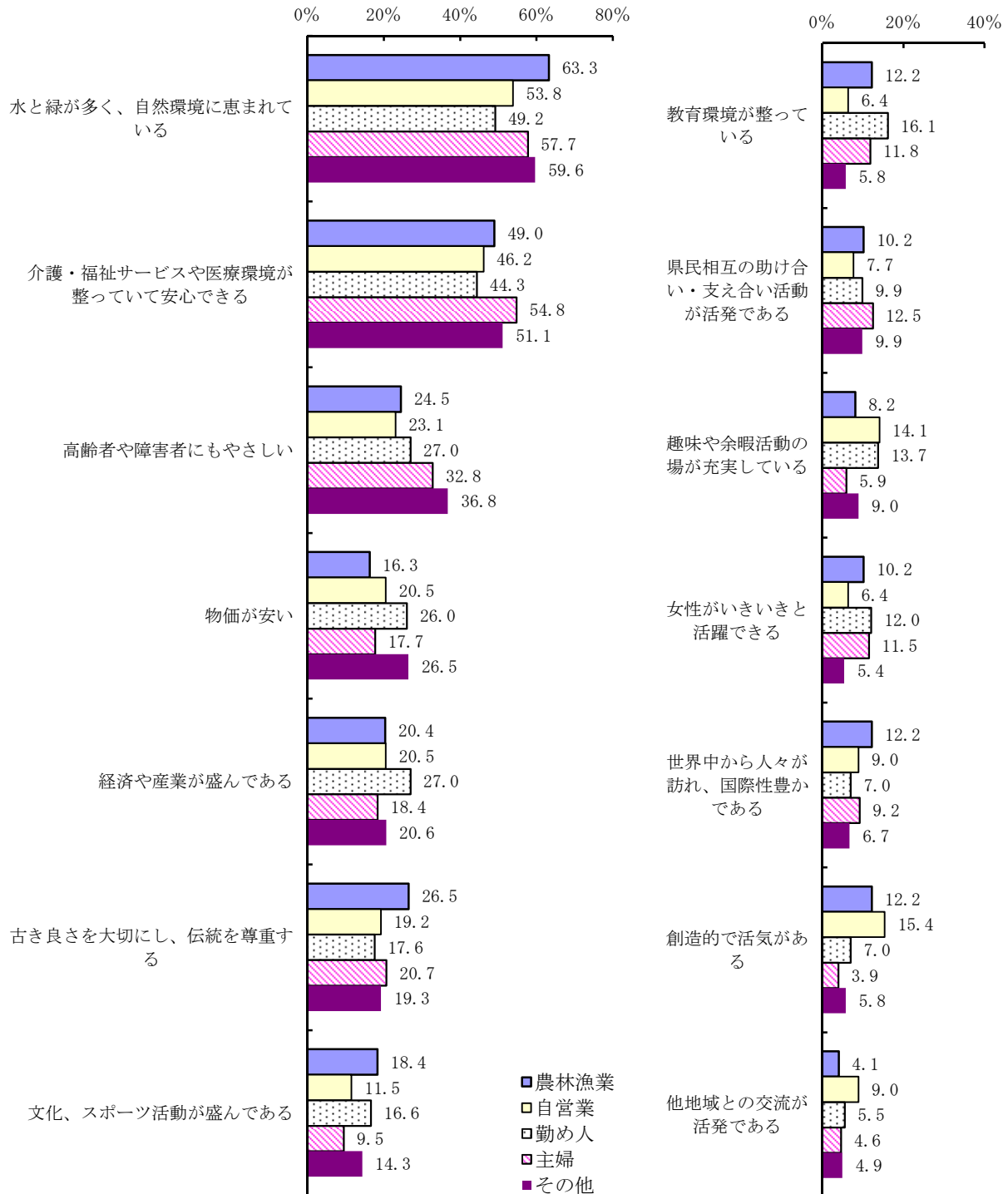


【職業別】

職業別にみると、全ての職種で「水と緑が多く、自然環境に恵まれている」と答えた人の割合が多くなっているが、農林漁業では、前回調査より10.5ポイント特に減少している。

また、「介護・福祉サービスや医療環境が整っていて安心できる」は主婦及びその他で、「経済や産業が盛んである」は勤め人で、「古き良さを大切にし、伝統を尊重する」は農林漁業で、他の職種と比較して多くなっている。

この他、前回調査と比較すると、農林漁業で「教育環境が整っている」と答えた人の割合は、8.9ポイント増加している。





#### 4 県政への要望

##### 問28 県政への要望

今後県政を進めていくうえで、あなたが特に力を入れてほしい施策は何ですか。次の(A)、(B)、(C)の中から一つずつ選んで番号を○で囲んでください。

(%)

##### (A) 産 業

1	農林業の振興	15.0
2	水産業の振興	2.8
3	商工業の振興	5.0
4	中小企業対策	14.2
5	観光の振興	11.5
6	雇用対策	33.5
7	道路整備	16.6
8	その他	1.5

##### (B) 生活環境

1	介護・医療サービスの充実	37.0
2	子育て支援対策	14.1
3	医療、保健衛生機能の拡充	15.3
4	ボランティア活動の活性化	1.5
5	物価・消費者保護対策	17.2
6	公害防止対策、自然環境の保全	2.5
7	上・下水道、ゴミ処理施設の整備	2.7
8	交通安全対策	2.7
9	犯罪防止対策	4.0
10	消防、防災対策	2.0
11	その他	1.0

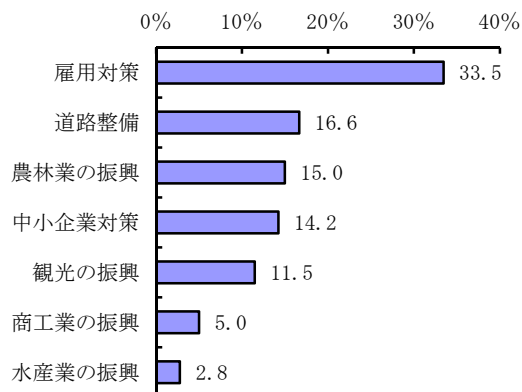
##### (C) 教 育

1	学校教育の充実	30.1
2	家庭教育の充実	11.3
3	社会教育の充実	19.7
4	青少年の健全育成	17.2
5	芸術、文化の振興	12.7
6	スポーツ、レクリエーション活動の助長	8.0
7	その他	0.9

今後、県政に望む施策について、(A)産業、(B)生活環境、(C)教育の3点に分けて質問した結果は、次のとおりである。

### 《産業面》

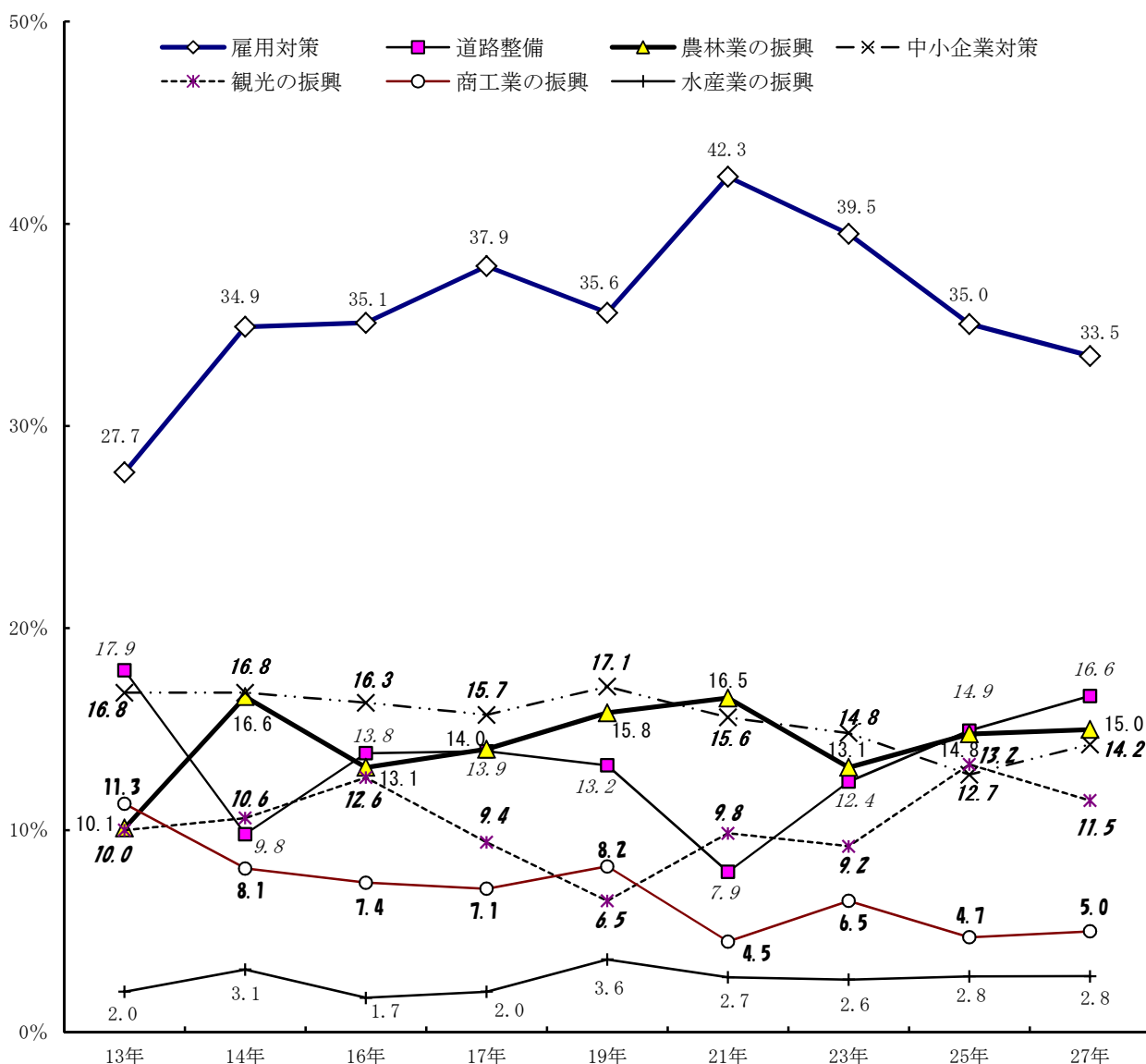
産業面で特に力を入れてほしいこととしては、「雇用対策」と答えた人の割合が、33.5%と特に多く、以下「道路整備」(16.6%)、「農林業の振興」(15.0%)、「中小企業対策」(14.2%)などの順となっている。



### 【経年変化】

経年変化をみると、「雇用対策」と答えた人の割合は平成13年以降上昇傾向であったが、平成21年からは減少し、前回調査と比較して1.5ポイント減少している。

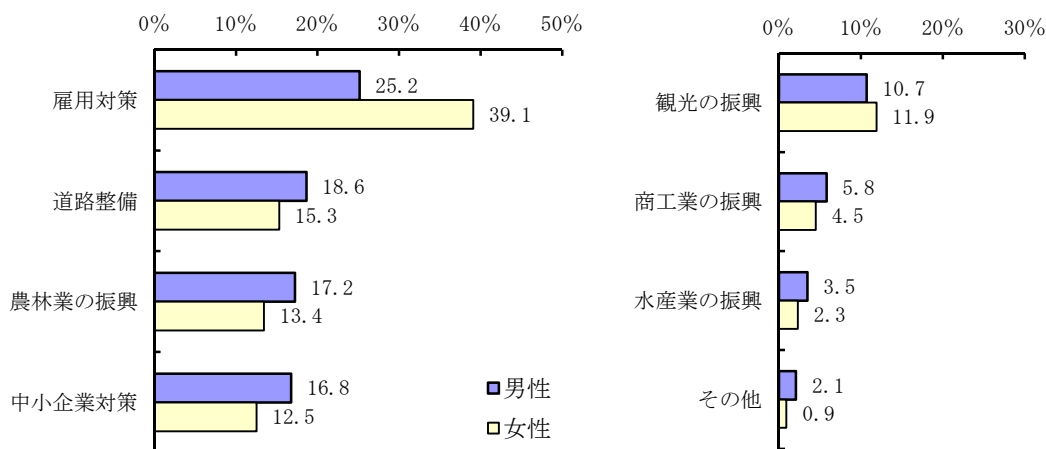
また、「道路整備」と答えた人の割合が、前回調査と比較して1.7ポイント増加しているほか、「観光の振興」は、1.7ポイント減少している。



### 【性別】

性別にみると、男女共に「雇用対策」と答えた人の割合が最も多く、女性（39.1%）の方が男性（25.2%）より13.9ポイント多くなっている。

また、「道路整備」、「農林業の振興」及び「中小企業対策」と答えた人の割合は、男性の方が比較的多くなっている。

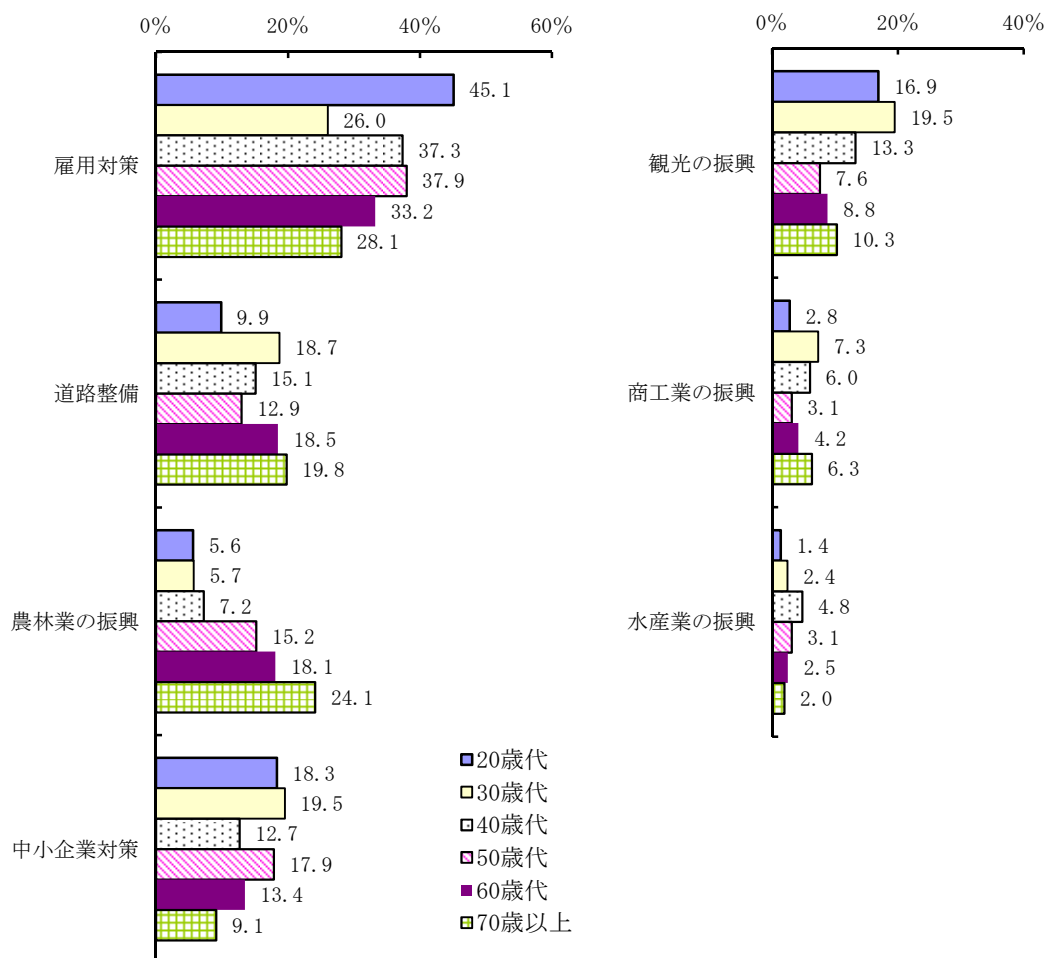


### 【年齢別】

年齢別にみると、全ての年齢層で「雇用対策」と答えた人の割合が最も多くなっている。

また、30歳代では「雇用対策」と答えた人の割合は、他の年齢層と比較して少ないが、逆に「中小企業対策」及び「観光の振興」は多い。

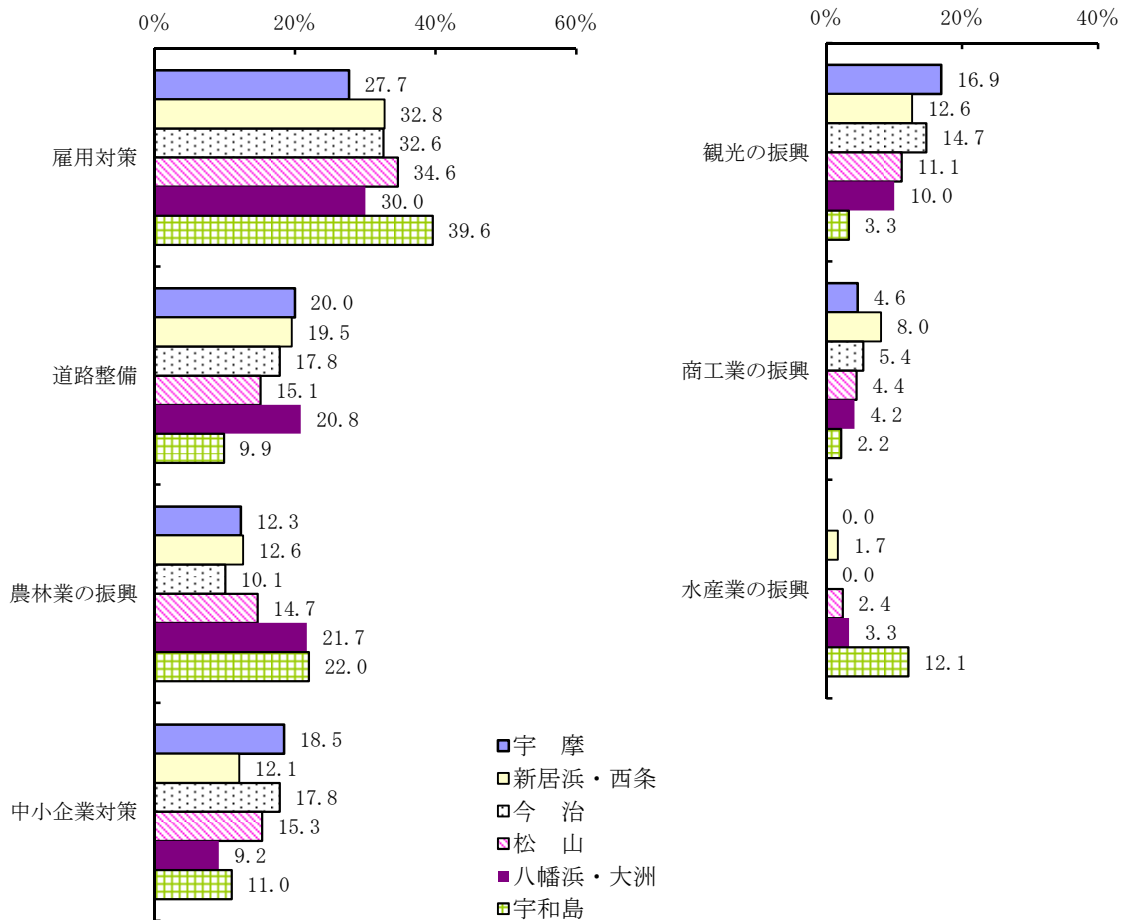
この他、前回調査と比較すると、「雇用対策」と答えた人の割合が、50歳代では10.3ポイントと特に減少しているが、「中小企業対策」は7.4ポイント増加している。



### 【生活圏域別】

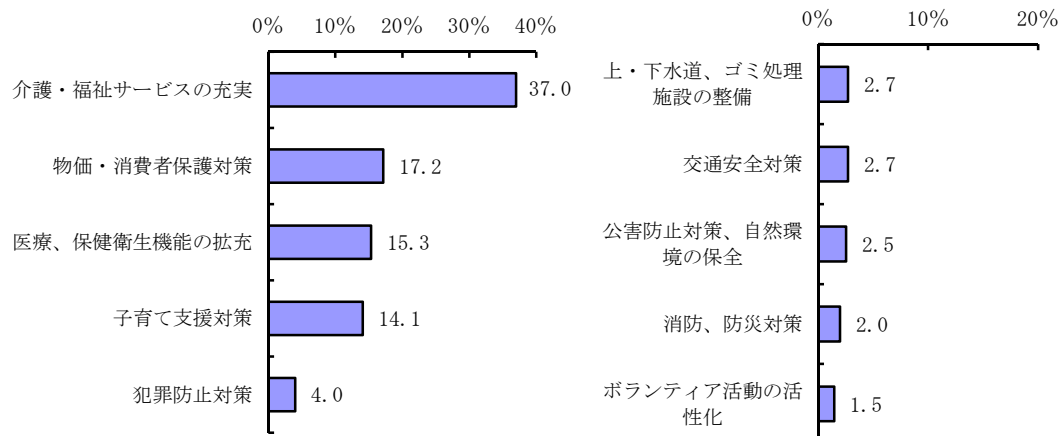
生活圏域別にみると、全ての圏域で「雇用対策」と答えた人の割合が最も多くなっているが、前回調査と比較して、宇摩圏域で9.5ポイント減少し、宇和島圏域で9.3ポイント増加している。

また、「農林業の振興」と答えた人の割合は八幡浜・大洲圏域及び宇和島圏域で、「中小企業対策」は宇摩圏域及び今治圏域で、「水産業の振興」は宇和島圏域で、他の圏域と比較して多くなっている。この他、「農林業の振興」は、八幡浜・大洲圏域で前回調査より12.8ポイント特に減少している。



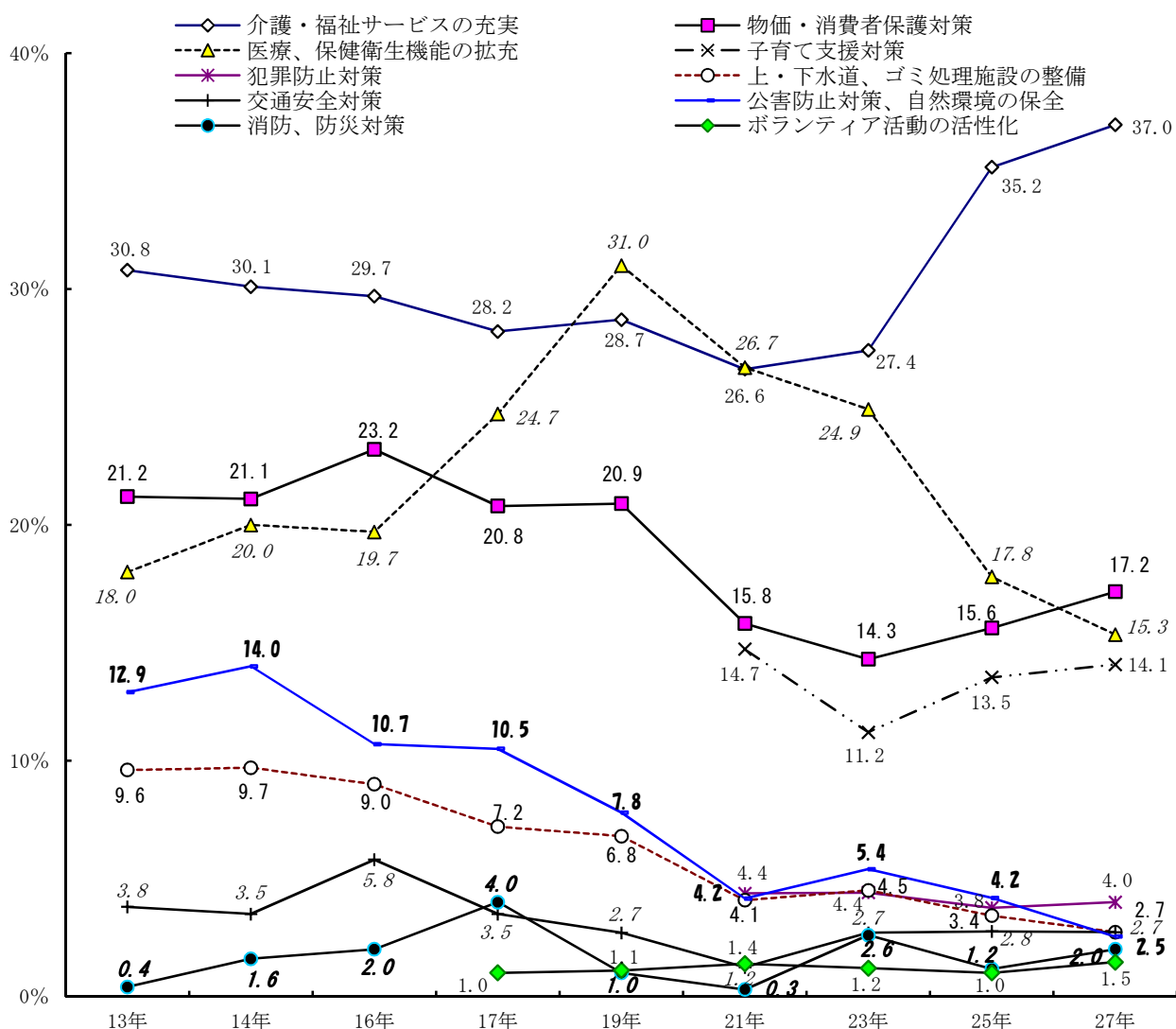
### 《生活環境面》

生活環境面で特に力を入れてほしいこととしては、「介護・福祉サービスの充実」と答えた人の割合が、37.0%で最も多くなっており、以下「物価・消費者保護対策」（17.2%）、「医療、保健衛生機能の拡充」（15.3%）、「子育て支援対策」（14.1%）、「犯罪防止対策」（4.0%）などの順となっている。



### 【経年変化】

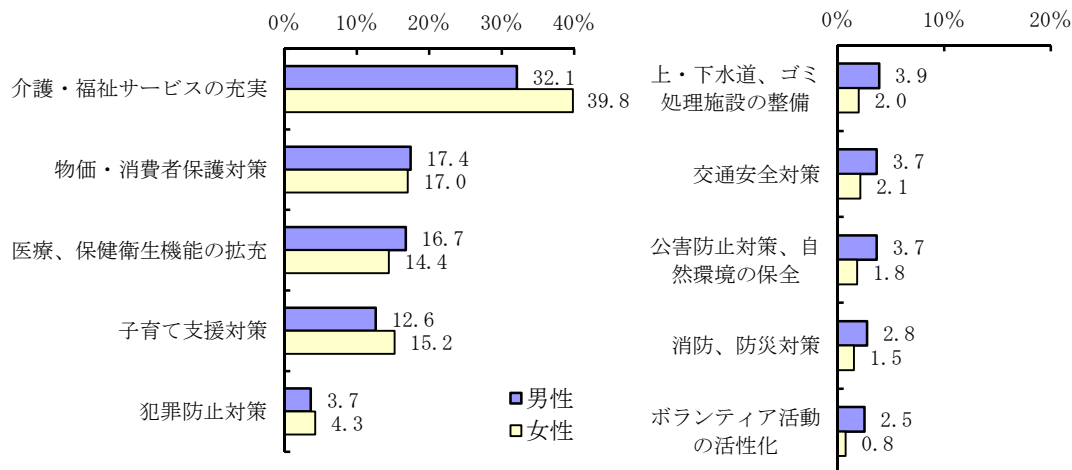
経年変化をみると、「介護・福祉サービスの充実」と答えた人の割合が、前回調査より1.8ポイント増加し、平成13年以降最も高くなっているが、「医療、保健衛生機能の拡充」は、平成19年以降減少傾向にあり、前回調査より2.5ポイント減少し、平成13年以降最も低くなっている。



### 【性別】

性別にみると、男女共に「介護・福祉サービスの充実」と答えた人の割合が最も多く、特に女性（39.8%）の方が男性（32.1%）より7.7ポイント多くなっている。

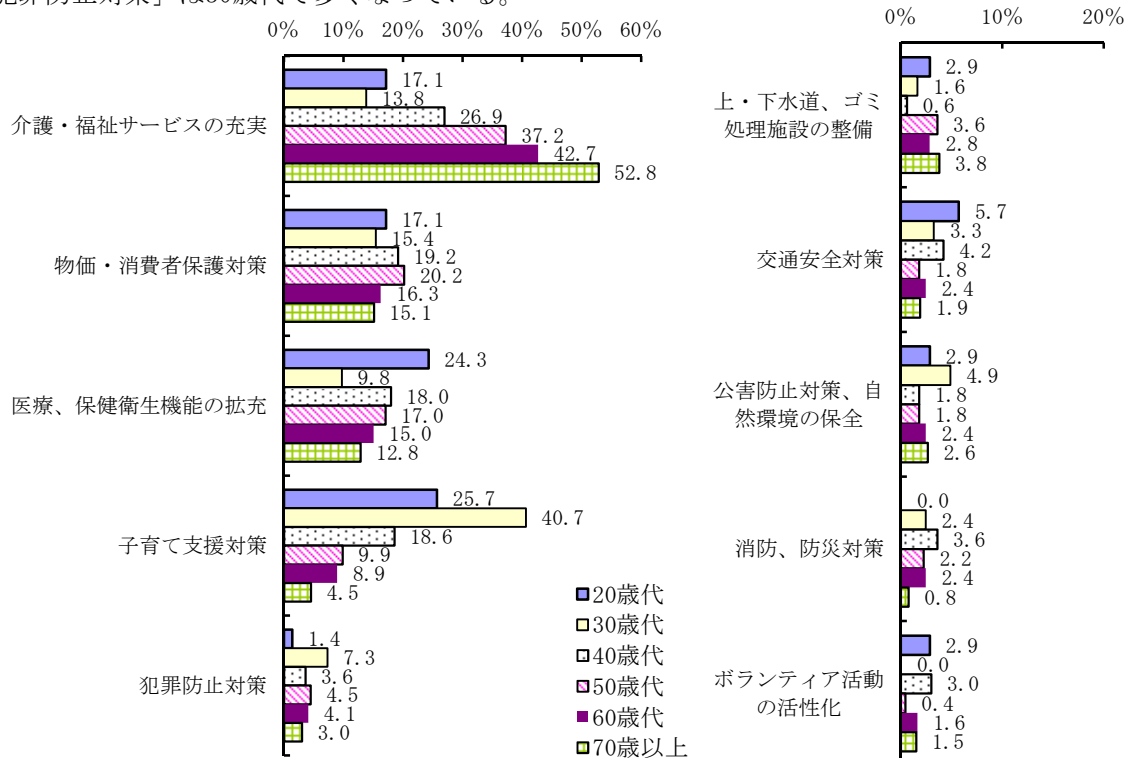
また、「医療、保健衛生機能の拡充」は男性の方が多く、「子育て支援」は女性の方が多くなっている。



### 【年齢別】

年齢別にみると、40歳代以上では「介護・福祉サービスの充実」と答えた人の割合が最も多く、30歳代以下では「子育て支援対策」が最も多くなっており、中でも30歳代（40.7%）で特に多くなっている。

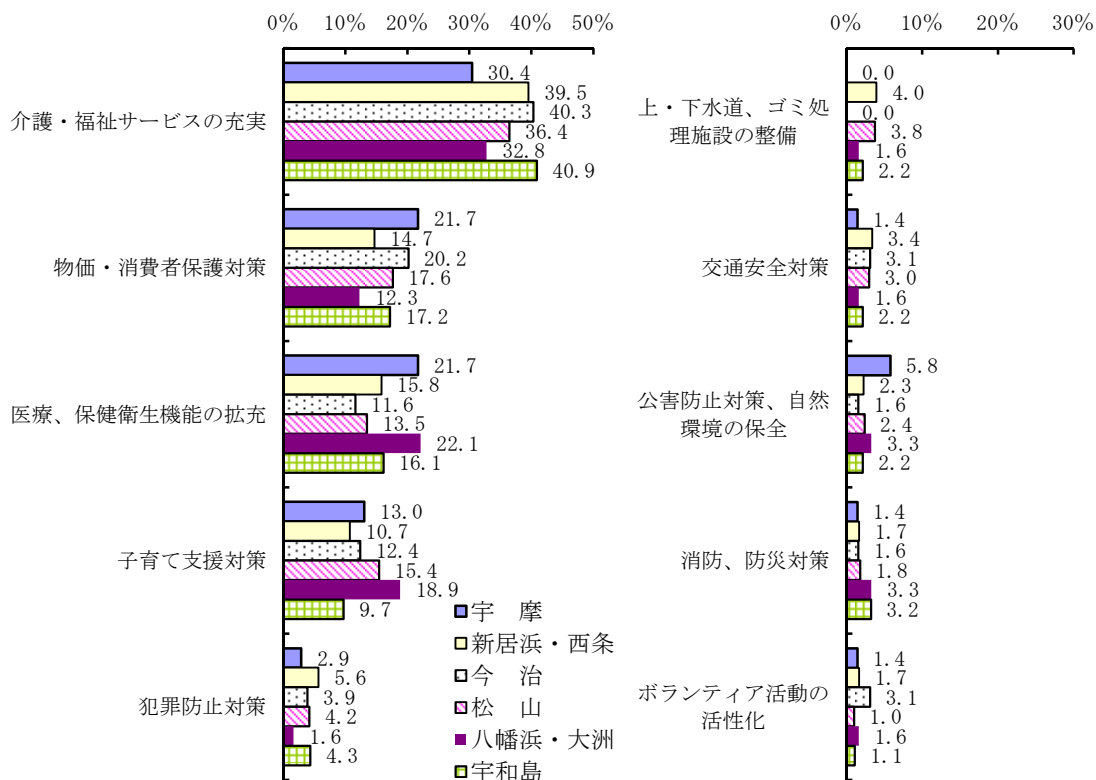
また、「医療、保健衛生機能の拡充」と答えた人の割合は、20歳代で他の年齢層と比較して多く、「犯罪防止対策」は30歳代で多くなっている。



### 【生活圏域別】

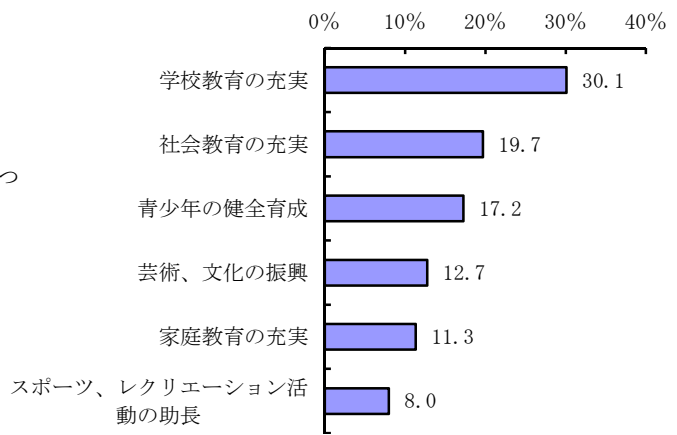
生活圏域別にみると、全ての圏域で「介護・福祉サービスの充実」と答えた人の割合が最も多くなっている。

また、「医療、保健衛生機能の拡充」と答えた人の割合は、宇摩圏域及び八幡浜・大洲圏域で他の圏域と比較して多くなっている。



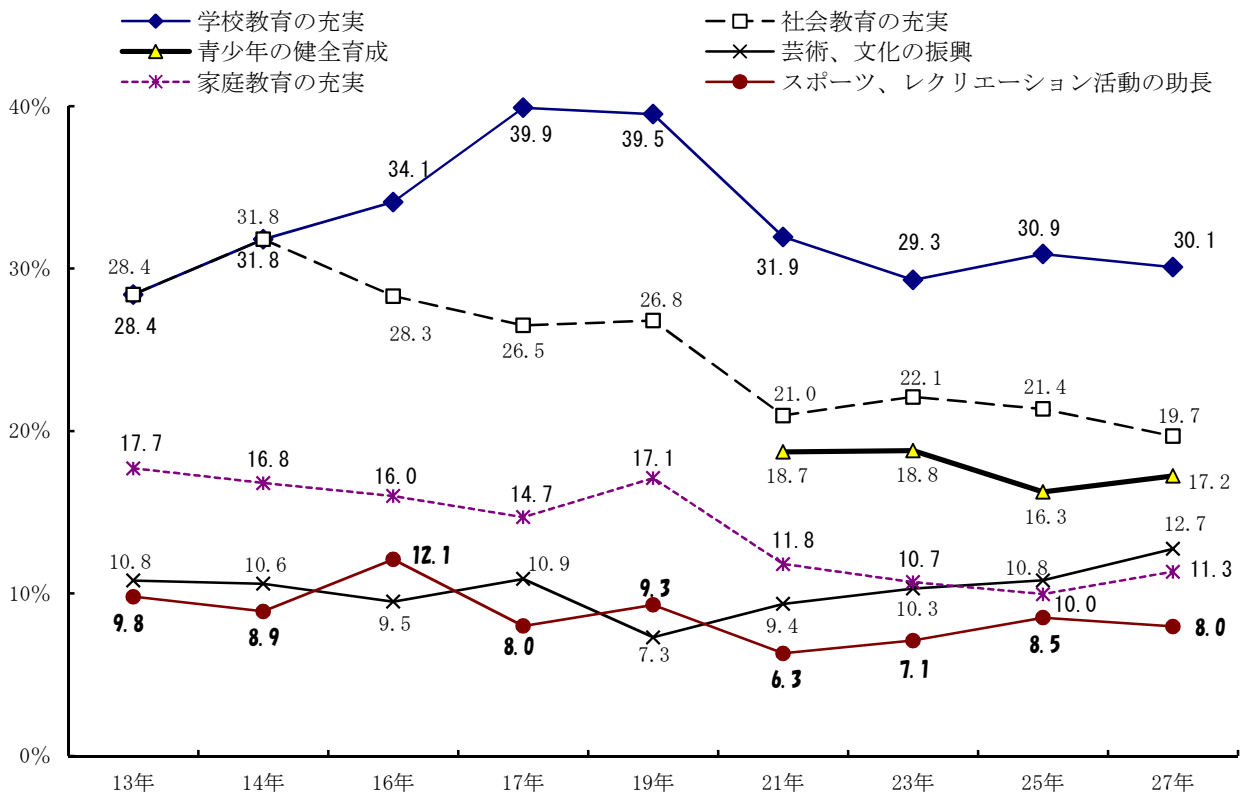
## 《教育面》

教育面で特に力を入れてほしいこととしては、「学校教育の充実」と答えた人の割合が、30.1%で最も多く、以下「社会教育の充実」（19.7%）、「青少年の健全育成」（17.2%）、「芸術、文化の振興」（12.7%）などの順となっている。



## 【経年変化】

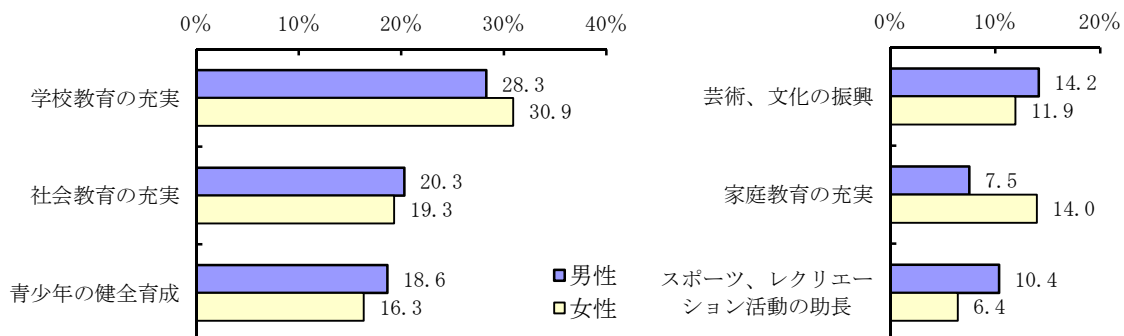
経年変化をみると、「学校教育の充実」と答えた人の割合は、前回調査とほぼ同様となっている。また、「社会教育の充実」は、平成14年調査から減少傾向にあり、前回調査より1.7ポイント減少し、平成13年以降最も低くなっている。



## 【性別】

性別にみると、男女共に「学校教育の充実」と答えた人の割合が最も多くなっている。（男性28.3%、女性30.9%）

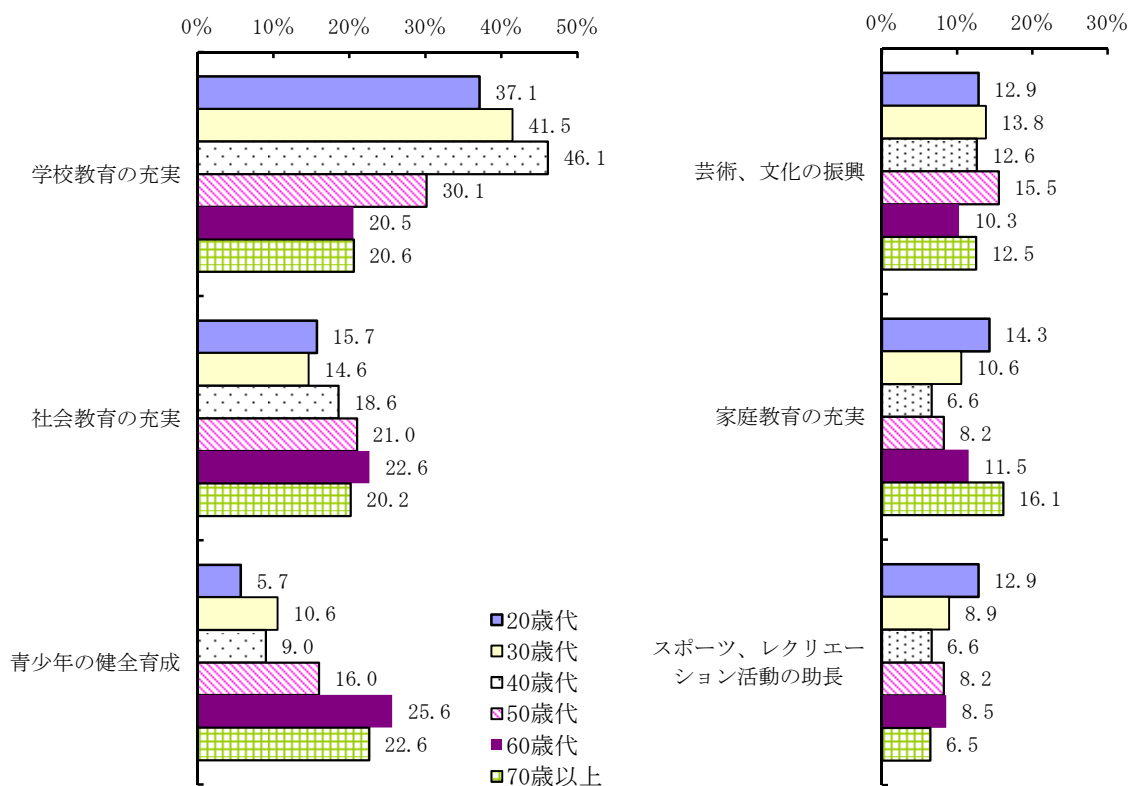
また、「青少年の健全育成」及び「スポーツ、レクリエーション活動の助長」と答えた人の割合は、男性の方が多く、「家庭教育の充実」は女性の方が多くなっている。



【年齢別】

年齢別にみると、50歳代以下では「学校教育の充実」と答えた人の割合が最も多く、中でも40歳代（46.1%）で特に多くなっている。60歳代以上は「青少年の健全育成」が最も多い。

また、「スポーツ、レクリエーション活動の助長」は、20歳代で他の年齢層と比較して多くなっている。



【生活圏域別】

生活圏域別にみると、全ての圏域で「学校教育の充実」と答えた人の割合が最も多くなっており、前回調査と比較して、今治圏域で9.1ポイント増加、八幡浜・大洲圏域で9.7ポイント減少している。

また、「社会教育の充実」と答えた人の割合は、中予地域及び南予地域で多く、「青少年の健全育成」は東予地域で多くなっている。

